

海を渡った写真～旧日本軍人の遺留品～

会期：令和7年10月3日（金）～30日（木）

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

令和5年11月29日付けで、本市が寄贈を受けたキセキ遺留品返還プロジェクト収集資料を初公開します。同プロジェクトは、1971年より旧日本軍人の遺留品を収集し、日本の家族等への返還活動に取り組んでいる団体です。2020年、イリノイ州で米国NPO法人として登録されました。

本資料群は、大正～昭和戦前期の日本軍の写真等80点で、久留米で創設された工兵第十八大隊に関するものを中心とします。今回、同隊の軍事演習を撮影した写真や、兵士の肖像写真など、計11点を展示します。

●工兵第十八大隊

旧日本陸軍の兵科の1つで、明治42年(1909)に久留米で編成され、終戦とともに解散しました。戦場では、橋梁の建設や破壊、道路の整備など、土木・通信関連の戦闘支援を担いました。

昭和16年(1941)編成の工兵第五十六連隊とあわせて久留米工兵隊とも呼ばれ、御井町の高良山入口信号に隣接して正門跡(門柱)が残ります。また、隊の出身者有志により「久留米工兵隊之跡碑」※が建立されました。

※同碑は、九州沖縄農業センター(筑後・久留米研究拠点)内に所在し、見学には許可が必要です。

●No.1 架橋作業 演習か



●No.2 砲台運搬 演習か。写真中央の2艘1対の船に、移動式砲台を載せる。その向こうに見える船は、馬を載せる



「工兵第十八大隊正門跡」などの戦争遺跡の所在については、歴史のまち久留米ストーリーシート4「軍の記憶 久留米の戦争遺跡を訪ねて」に地図を掲載し、歴史的背景とともに紹介しています。ぜひ、QRコードよりご覧ください。



●No.3 創立記念日の演習

爆破の様子。裏にペン書で「大正十五年十月十七日」
「創立記念日」とある



●No.4 工兵第十八大隊の上等兵

満開の桜を背に。右腕に精勤章、軍帽に陸軍の五芒星、
襟に「18」、肩の階級章は3つ星



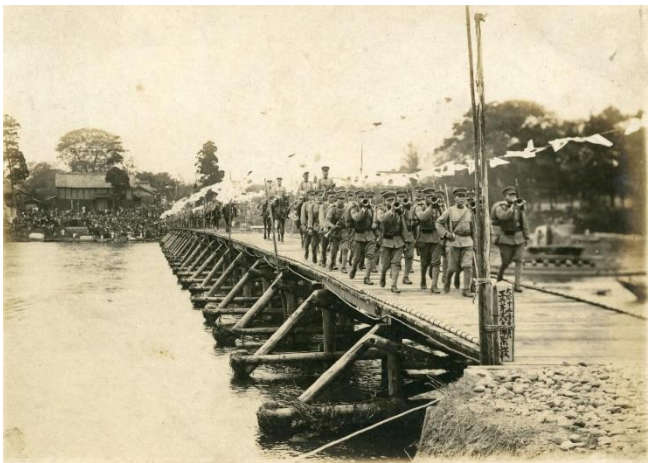
●No.5 工兵第十八大隊の二等兵

2人とも襟に「18」、肩の階級章は1つ星



●No.6 工兵第十八大隊の行進

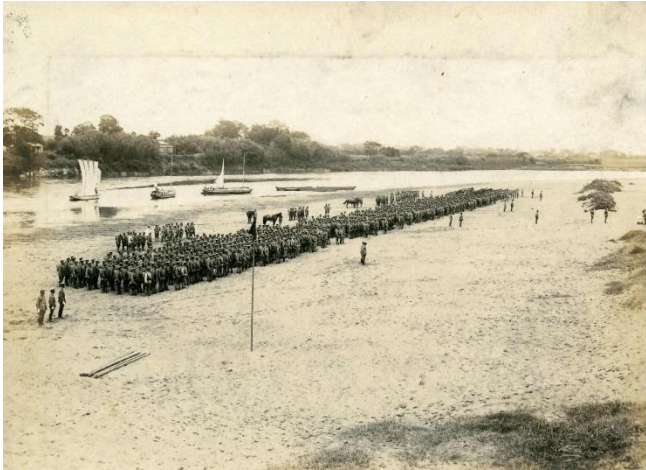
片の瀬橋(現・筑後川橋)。楽隊を先頭に騎馬兵が続く。



橋の親柱に「大正
十五年■月 工兵
第十八大隊架設」
とみえる。

●No.7 神代ニオケル歩兵隊トノ連合演習

現在の神代橋(久留米市山川神代)付近。表題は裏のペン書による



●No.8 合同演習

裏にペン書で「大正十五年八月十六日」「□空隊トノ連合演習」



●No.9 架橋演習

神代橋付近か



●No.10 演習視察

砲弾による陸軍演習。双眼鏡から覗きみるイメージか。



●No.11 巡回風景

写真左の人物の襟に「81」とあり、1944 年に栃木県宇都宮で編成された第 81 師団と分かる。本資料群には、工兵第十八大隊以外の写真も含まれる。

